

「A」次の文の(訳)の「」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

- 1 加持などまゐるほど、日高くさしあがりぬ。(源氏物語)
    - ①(訳) (病気の光源氏に) 祈禱など「」。「うちに、日も高く昇った。
    - ②お考えになる
    - ③お勧めする
    - ④ございませす
    - ⑤し申し上げる
  - 2 (藤原良房ハ) 和歌もあそばしけるにこそ。古今にも、あまた侍るめるは。(大鏡)
    - ①(訳) 藤原良房は和歌もよく「」た。『古今和歌集』にも、たくさん入っているようですよ。
    - ②お詠みになつ
    - ③学ばれ
    - ④贈られ
    - ⑤お聞かせになつ
  - 3 「さること候ひき」と申す。(宇治拾遺物語)
    - ①(訳) 「そういうことが」「た」と申し上げる。
    - ②おできになりまし
    - ③お話しされまし
    - ④ありまし
    - ⑤いらつしやつ
  - 4 よきに奏し給へ、啓し給へ。(枕草子)
    - ①(訳) よろしく天皇に申し上げてください、「」てください。
    - ②(皇后にも) 申し上げ
    - ③(法皇にも) 申し上げ
    - ④(大臣にも) 申し上げ
    - ⑤(宮中にも) 申し上げ
  - 5 御気色悪しくはべりき。(源氏物語)
    - ①(訳) ご機嫌が悪う「」た。
    - ②お聞きしまし
    - ③ございませし
    - ④申し上げ
    - ⑤いらつしやつ
  - 6 「かかる人こそは世におはしましけれ」と、驚かるるまでぞ、まもり参らする。(枕草子)
    - ①(訳) 「このような方が世にいらつしやつたのだ」と、自然とはつとした気持ちになるまで、「」見つめ「」。
    - ②おこなさる
    - ③おとしております
    - ④おくられる
    - ⑤おく申し上げる
  - 7 その秋、住吉に詣で給ふ。(源氏物語)
    - ①(訳) (光源氏は) その秋、住吉大社に「」になる。
    - ②参上
    - ③招待
    - ④参詣
    - ⑤命令
  - 8 矢七つ八つ候へば、しばらく防ぎ矢つかまつらん。(平家物語)
    - ①(訳) 矢が七、八本ありますので、しばらく防ぎ矢を「」う。
    - ②いたそ
    - ③お贈りしよ
    - ④いただこ
    - ⑤してみましょ
- 「B」次の文の(訳)の「」に入る語句を答えよ。
- 9 帝ばかりは御衣を召す。残りは皆裸なり。(沙石集)
    - ①(訳) 天皇だけがお着物を「」。残りの者は皆裸である。
  - 10 天皇の、天の下しろしめすこと、四つの時、九返りになむなりぬる。(古今和歌集・仮名序)
    - ①(訳) (醍醐) 天皇が、天下を「」。ことは、四季が、九回(＝九年)になった。
  - 11 今井の四郎兼平生年三十三にまかりなる。(平家物語)
    - ①(訳) 今井の四郎兼平は年齢は三十三になり「」。
  - 12 おほやけも行幸せしめたまふ。(大鏡)
    - ①(訳) 天皇も「」なさいませす。

解答

【新三年生用】 古文単語383訂版 P 166 ～ P 175

- 1 「④」
- 2 「①」
- 3 「③」
- 4 「①」
- 5 「②」
- 6 「④」
- 7 「③」
- 8 「①」
- 9 「お召しになる」
- 10 「お治めになる」
- 11 「申す」
- 12 「お出かけ」